令和５年度　市内遺跡発掘調査報告書

２０２４

甲賀市教育委員会

序

甲賀市は滋賀県の南東部に位置し、東は三重県、南は京都府と接しています。市内には古くから東海道といった主要街道が通り、現代でも新名神高速道路や国道１号が通るなど、交通の要衝であります。

市内には「紫香楽宮跡」・「垂水頓宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」の４つの国指定史跡があるほか、500 箇所を超える多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されています。

埋蔵文化財は地中に埋もれていることから、普段目にする機会が少なく、発掘調査によって初めて明らかになります。この地中に残された文化財は、先人たちが築いてきた歴史であり、今の甲賀市へと繋がる郷土の大切な財産です。この貴重な財産、「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。

本報告書に記載している試掘調査は、開発行為に先立つ調査であり、埋蔵文化財の保護と土地利用の両立を図ることを目的としています。令和４年度は１３件の試掘・分布調査を実施し、新たな発見をすることができました。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和６年（２０２４年）３月

甲賀市教育委員会

教育長　立岡　秀寿

例　言

1. 本書は甲賀市教育委員会が令和４年度に実施した試掘調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、令和４年度に現地調査を、令和５年度に整理調査を実施した。

2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。

3. 令和４年度および令和５年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。

【令和４年度】

調査主体　甲賀市教育委員会　教育長　西村　文一（～令和５年１月 26 日）
　　教育長職務代理者　松山　顕子（令和５年１月 27 日～）

調査事務局　甲賀市教育委員会事務局　歴史文化財課
　　課長　田村　勝也
　　参事　鈴木　良章
　　埋蔵文化財係長　小谷　徳彦
　　主査　渡部　圭一郎
　　技師　伊藤　航貴（調査担当者）

【令和５年度】

調査主体　甲賀市教育委員会　教育長　立岡　秀寿

調査事務局　甲賀市教育委員会事務局　歴史文化財課
　　課長　前田　正
　　参事　鈴木　良章
　　埋蔵文化財係長　小谷　徳彦
　　主査　渡部　圭一郎
　　主査　伊藤　航貴（調査担当者）

4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当した。

5. 22-10 次の三次元測量図化業務は、株式会社アコードに業務委託した。

6. 本書で示す北は座標北である。

7. 本書で報告した試掘調査の図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。

目　次

22-01・03 次　水口城遺跡 …… 3
22-02 次　五反田口城遺跡 …… 7
22-05 次　植遺跡 …… 10
22-06 次　坊谷遺跡 …… 12
22-07 次　甲南町野尻地先 …… 16
22-08 次　前野遺跡 …… 19
22-09 次　東山遺跡 …… 22
22-10 次　丸由窯跡 …… 24
22-11 次　市原城遺跡 …… 42
22-12 次　水口岡山城遺跡 …… 44
22-13 次　甲南町野田（下浦遺跡近接地） …… 47

表　目次

表 1：試掘・分布調査一覧 …… 1

図版　目次

図 1：試掘・分布調査位置図 …… 2
図 2：22-01・03 次の調査位置と水口城遺跡の既往調査 …… 3
図 3：22-01・03 次　トレンチ位置図 …… 4
図 4：22-01 次　出土遺物 …… 4
図 5：22-01・03 次　土層断面図 …… 5
図 6：22-02 次　試掘調査対象範囲位置図 …… 7
図 7：22-02 次　トレンチ位置図 …… 8
図 8：22-02 次　土層断面図 …… 8
図 9：22-05 次　調査対象範囲位置図 …… 10
図 10：22-05 次　トレンチ位置図・土層断面図 …… 11
図 11：22-06 次　調査対象範囲位置図 …… 12
図 12：22-06 次　トレンチ位置図 …… 13
図 13：22-06 次　土層断面図 …… 14
図 14：22-07 次　調査対象範囲位置図 …… 16
図 15：22-07 次　トレンチ位置図 …… 17
図 16：22-07 次　土層断面図 …… 17
図 17：22-08 次　調査対象範囲位置図 …… 19
図 18：22-08 次　トレンチ位置図 …… 20
図 19：22-08 次　出土遺物 …… 20
図 20：22-08 次　土層断面図 …… 20
図 21：22-09 次　調査対象範囲位置図 …… 22
図 22：22-09 次　トレンチ位置図 …… 23
図 23：22-10 次　調査対象範囲位置図 …… 24
図 24：22-10 次　平面図 …… 25
図 25：22-10 次　立面図（背面） …… 25

図 26：22-10 次　立面図（上段：前面，中段：右側面，下段：左側面）……26
図 27：22-10 次　窯内部図面（上段：4 室目，下段：5 室目）……27
図 28：22-10 次　窯内部図面（上段：6 室目，下段：7 室目）……28
図 29：22-10 次　トレンチ断面図……29
図 30：22-11 次　調査対象範囲位置図……42
図 31：22-11 次　トレンチ位置図・土層断面図……43
図 32：22-12 次　調査対象範囲位置図……44
図 33：22-12 次　トレンチ位置図……45
図 34：22-12 次　土層断面図……45
図 35：22-13 次　調査対象範囲位置図……47
図 36：22-13 次　トレンチ位置図・土層断面図……48

写真　目次

写真 1：22-01 次　1 トレ全景……6
写真 2：22-01 次 1 トレ掘り下げ……6
写真 3：22-01 次 1 トレ土層……6
写真 4：22-03 次 1 トレ全景……6
写真 5：22-03 次 1 トレ土層……6
写真 6：22-03 次 1 トレ掘り下げ……6
写真 7：22-02 次　1 トレ全景……9
写真 8：22-02 次　1 トレ土層……9
写真 9：22-02 次　4 トレ全景……9
写真 10：22-02 次　4 トレ土層（北壁）……9
写真 11：22-02 次　5 トレ全景……9
写真 12：22-02 次　5 トレ土層……9
写真 13：22-05 次　1 トレ全景……11
写真 14：22-05 次　1 トレ土層……11
写真 15：22-06 次　2 トレ全景……15
写真 16：22-06 次　2 トレ土層……15
写真 17：22-06 次　4 トレ全景……15
写真 18：22-06 次　4 トレ土層（北壁）……15
写真 19：22-06 次　7 トレ全景……15
写真 20：22-06 次　7 トレ土層……15
写真 21：22-07 次　1 トレ全景……18
写真 22：22-07 次　1 トレ土層……18
写真 23：22-07 次　3 トレ全景……18
写真 24：22-07 次　3 トレ土層……18
写真 25：22-07 次　6 トレ全景……18
写真 26：22-07 次　6 トレ土層……18
写真 27：22-08 次　1 トレ全景……21
写真 28：22-08 次　1 トレ土層……21
写真 29：22-08 次　5 トレ全景……21

写真 30：22-08 次　5 トレ土層 …… 21
写真 31：22-09 次　1 トレ全景 …… 23
写真 32：22-09 次　1 トレ土層 …… 23
写真 33：22-10 次　平面オルソ …… 30
写真 34：22-10 次　背面オルソ …… 30
写真 35：22-10 次　前面オルソ …… 31
写真 36：22-10 次　右側面オルソ …… 31
写真 37：22-10 次　左側面オルソ …… 31
写真 38：22-10 次　調査地遠景（北から） …… 32
写真 39：22-10 次　丸由窯跡全景（北から） …… 32
写真 40：22-10 次　崩落状況（西から） …… 33
写真 41：22-10 次　崩落状況（東から） …… 33
写真 42：22-10 次　窯跡前面 …… 34
写真 43：22-10 次　崩落壁除去後（北西から） …… 34
写真 44：22-10 次　崩落壁除去後（西から） …… 35
写真 45：22-10 次　残存する焼成室入口 …… 35
写真 46：22-10 次　残存する覆屋の支柱 …… 36
写真 47：22-10 次　焼成室 4 室目入口 …… 36
写真 48：22-10 次　焚き口 …… 37
写真 49：22-10 次　背面残存状況 …… 37
写真 50：22-10 次　燃焼室 …… 38
写真 51：22-10 次　1 室目狭間 …… 38
写真 52：22-10 次　1 室目 …… 38
写真 53：22-10 次　2 室目 …… 39
写真 54：22-10 次　3 室目 …… 39
写真 55：22-10 次　4 室目内部 …… 39
写真 56：22-10 次　7 室目内部 …… 40
写真 57：22-10 次　焼成室内部壁面 …… 40
写真 58：22-10 次　第 1 トレンチ …… 40
写真 59：22-10 次　レンガ設置状況 …… 41
写真 60：22-10 次　第 2 トレンチ（色見穴埋没状況） …… 41
写真 61：22-10 次　第 2 トレンチ堆積状況 …… 41
写真 62：22-11 次　1 トレ全景 …… 43
写真 63：22-11 次　1 トレ土層 …… 43
写真 64：22-12 次　1 トレ全景 …… 46
写真 65：22-12 次　1 トレ土層 …… 46
写真 66：22-12 次　2 トレ全景 …… 46
写真 67：22-12 次　2 トレ土層 …… 46
写真 68：22-13 次　1 トレ全景 …… 49
写真 69：22-13 次　1 トレ土層 …… 49
写真 70：22-13 次　2 トレ全景 …… 49

全体概要

甲賀市では令和４年度に開発事業などにかかる埋蔵文化財の試掘調査及び分布調査を 13 件実施した。

試掘調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が 10 件、同範囲外で実施した調査が３件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査及び分布調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘調査及び分布調査の件数は、令和３年度と同件数であった。

表１に令和４年度に実施した試掘・分布調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が５件、遺構の存在を確認した調査は１件であった。

本報告書では、遺跡内と遺跡近接地で実施した調査、遺跡外で遺物が出土した調査について、その概要を記述する。

表１：試掘・分布調査一覧

調査次数	調査開始日	調査終了日	調査地			対象面積(㎡)	目的	目的詳細	遺跡有無	遺跡名	結果				
			町名	大字	小字						調査面積(㎡)	遺物	詳細	遺構	詳細
22-01次	R4. 7. 6	R4. 7. 6	水口町	中部		1,692.54	e その他開発	介護福祉施設	**あり**	水口城遺跡	12.00	△	瓦器、信楽焼	×	
22-02次	R4. 7. 21	R4. 7. 22	甲賀町	油日	藤ケ谷	3,130.56	e その他開発	駐車場・資材置場	**あり**	五反田口城遺跡	54.00	△	平瓦	×	
22-03次	R4. 8. 18	R4. 8. 18	水口町	中部		1,692.54	e その他開発	介護福祉施設	**あり**	水口城遺跡	6.00	×		×	
22-04次	R4. 9. 1	R4. 9. 1	甲南町	新治	堂山	7,181.54	e その他開発	太陽光発電	無		7181.54	×		×	
22-05次	R4. 12. 26	R4. 12. 26	水口町	植	澤	1,897.00	k 店舗	コンビニ	**あり**	植遺跡	14.00	×		×	
22-06次	R4. 10. 18	R4. 10. 28	甲南町	池田	三界	214,637.00	e その他開発	太陽光発電	**あり**	坊谷遺跡	154.00	△	磁器	×	
22-07次	R4. 11. 22	R4. 11. 22	甲南町	野尻		5,711.71	g 学校	認定こども園	無		60.00	△	瓦器、信楽焼	×	
22-08次	R4. 11. 30	R4. 11. 30	甲南町	杉谷	前野	5,420.00	e その他開発	資材置き場	**あり**	前野遺跡	50.00	△	信楽焼すり鉢	×	
22-09次	R4. 12. 5	R4. 12. 5	信楽町	黄瀬		1,738.00	e その他開発	農業倉庫	**あり**	冥山遺跡	40.00	×		×	
22-10次	R5. 1. 10	R5. 3. 31	信楽町	長野	奥出	287.00	a 自然修復	現況確認	**あり**	丸山窯跡	287.00	○		○	登窯
22-11次	R5. 02. 08	R5. 02. 08	甲南町	市原	新関	841.00	e その他開発	太陽光発電	**あり**	市原城遺跡	26.00	×		×	
22-12次	R5. 02. 20	R5. 02. 20	水口町	本町		2,603.77	g 学校	児童クラブ	**あり**	水口岡山城遺跡	22.00	×		×	
22-13次	R5. 03. 10	R5. 03. 10	甲南町	野田	下溝	1,768.87	c 宅地造成	分譲	近接地	下溝遺跡	24.00	×		×	

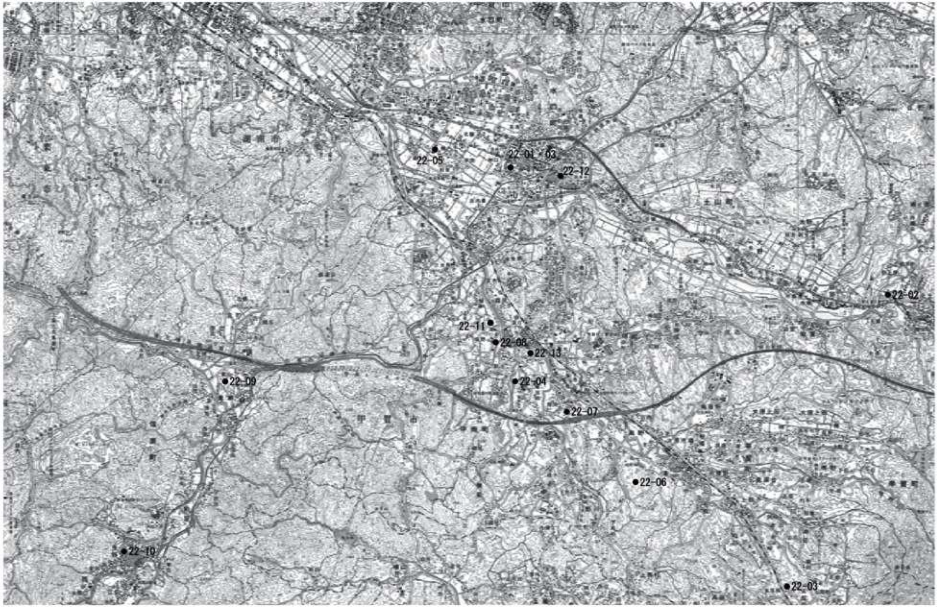


図１：試掘・分布調査位置図

22-01・03 次　水口城遺跡

調査位置と調査経緯

水口城は、寛永 11 年（1634 年）に徳川家光の上洛時に将軍の宿館として築かれたが、一度だけ利用されたのみで、その後は城番によって管理されていた。天和 2 年（1682 年）には加藤明友が水口藩の初代藩主として入封し、居城とした。元禄 8 年（1695 年）には鳥居氏が城主となるが、正徳 2 年（1712 年）に加藤氏が再び入封し、城主となった。明治 4 年（1871 年）には廃藩置県によって大蔵省所有となり、その後払い下げられ、現在は県立水口高等学校のグラウンドとして利用されている。なお、昭和 47 年（1972 年）に本丸部分が滋賀県の史跡に指定された。

水口城遺跡の範囲は、「水口城郭内絵図」に描かれている、二の丸と家臣団屋敷を含めた郭内である。水口城遺跡では、これまでに本発掘調査は実施しておらず、ほとんどが小規模な試掘調査である。試掘調査は 22 件実施しており、本丸北西側を中心に近世の遺構や遺物を確認している。

15-25 次、11-06 次、10-25 次では、水口城の時期と考えられる遺構のほかに竪穴建物も確認し、21-08 次では、古墳時代の遺構から須恵器の甕が出土した。また、堀外周を巡る周遊道路工事に伴う試掘調査（05-09 次）では、下層から平安時代中期の緑釉陶器などが出土した。しかしながら、遺跡内は宅地化が進んでおり、明確な遺構を確認した調査はごくわずかであり、遺跡の詳細は不明である。

図 2：22-01・03 次の調査位置と水口城遺跡の既往調査

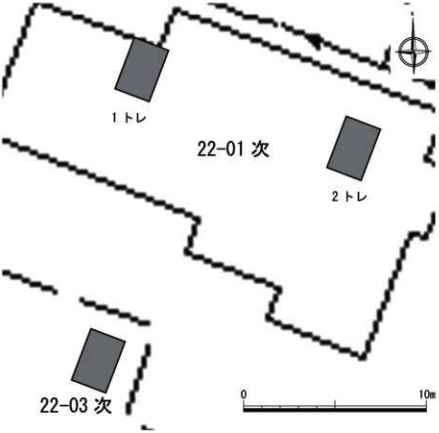


図 3：22-01・03 次トレンチ位置図

令和 3 年度に実施した 21-08 次では、既存建物のため試掘調査を実施できなかった範囲があり、22-01 次では既存建物の解体後に調査区を設定し、調査を実施した。また、22-03 次では新築する建物の位置を決定するために、21-08 次および 22-01 次で未調査箇所の調査を実施した。

今回報告する 22-01･03 次は、21-08 次の追加調査であり、介護施設建設に伴う試掘調査である。

調査概要

22-01 次

トレンチは 2 × 3 m を 2 箇所設定し、面積は 12 ㎡となった。基本層序は、①灰色砕石（現代造成土）、②黄褐色粘質土、③茶褐色粘質土、④明茶褐色粘質土で、現況地表面から約 100cm 下で④層を確認した。

すべてのトレンチで遺構は確認できなかった。遺物は 2 トレから瓦器、磁器、土師器、瓦、陶器が出土した。瓦器以外は小片のため図化していない。

図 4：22-01 次　出土遺物

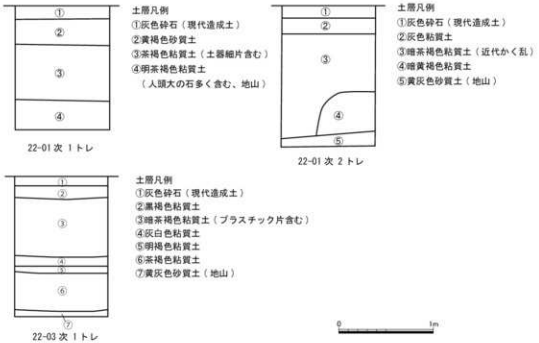


図 5：22-01・03 次土層断面図

22-03 次

トレンチは 2 × 3 m を 1 箇所設定し、面積は 6 ㎡となった。基本層序は、①灰色砕石（ 現代造成土）、②黒褐色粘質土、③暗茶褐色粘質土（ プラスチック片を含む）、④灰白色粘質土、⑤明褐色粘質土、⑥茶褐色粘質土、⑦黄灰色砂質土（地山）で、現地表面から約 140cm 下で⑦層を確認した。

22-03 次では、遺構と遺物は確認できなかった。

まとめ

今回の試掘調査では、保護対象となる埋蔵文化財は確認できなかった。21-08 次では、古墳時代の土坑を確認しており、周辺でさらに遺構が確認できると期待した。しかし、調査対象範囲の北側では遺構が確認できなかった。なお､南側については今回の計画に含まれていなかったため、試掘調査を実施していない。

これまで水口城遺跡では試掘調査を実施してきたが、明確な遺構が確認できていない。水口城遺跡がある地域は、近世から現代まで水口町の中心部であり、開発が盛んに行われてきた地域でもある。そのため、遺構が確認されてこなかったと考えられる。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第 7 巻 甲賀の城』
甲賀市教育委員会 2012『甲賀市埋蔵文化財調査年報』
甲賀市教育委員会 2020『令和元年度市内遺跡発掘調査報告書』
甲賀市教育委員会 2023『令和 4 年度市内遺跡発掘調査報告書』

写真 1：22-01 次　1 トレ全景

写真 2：22-01 次 1 トレ掘り下げ

写真 3：22-01 次 1 トレ土層

写真 4：22-03 次 1 トレ全景

写真 5：22-03 次 1 トレ土層

写真 6：22-03 次 1 トレ掘り下げ

22-02 次　五反田口城遺跡

調査位置と調査経緯

五反田口城遺跡は、甲賀町油日に位置する城跡である。城跡は、標高 240 mの丘麓に立地しており、土塁囲みの曲輪Ⅰ（主郭）と、西側の一段下がった地点にも曲輪Ⅱを設けている。

曲輪Ⅰは、現在宅地となっており、背後の丘陵を切り込んで造成している。規模は東西 25 m、南北 50 mの長方形を呈し、両側面には高さ 1 ～ 1.5 mの土塁がめぐる。曲輪の背後はテラス状に造成され、一部は土塁状となっている。曲輪Ⅱは、東西 45 m、南北 35 mの規模で、西辺から南辺の一部にかけて高さ約 1.5 mの土塁をめぐらす。現在曲輪Ⅰにある民家は、以前は曲輪Ⅱに建てられていたという。五反田口城遺跡では、これまで発掘調査を実施していない。

今回報告する 22-02 次は、資材置き場及び駐車場造成に伴う試掘調査である。

調査概要

トレンチは、３×４mを４箇所、１×２mを３箇所設定し、調査面積は 54 ㎡となった。五反田口城跡の曲輪Ⅰの北西側土塁の一部と、曲輪Ⅱが工事計画内であったため、トレンチは曲輪Ⅱ内に４箇所、曲輪Ⅱの西辺から南辺にめぐる土塁に３箇所設定した。

基本層序は、①表土、②暗茶褐色粘質土（現代の瓦等含む）、③黒褐色粘質土、④黄褐色砂質土（地山）で、現地表面から約 60 ～ 70 ㎝下で④層を確認した。

調査の結果、曲輪Ⅱにおいて遺構や遺物は確認できなかった。曲輪Ⅱの土塁は断ち割りの結果、土塁構築土から遺物が出土せず、突き固められた痕跡は確認できなかった。また、土塁は道に沿って築かれており、近代以降の宅地化の際に、敷地境界に盛られたものと考えられる。

遺物は、時期不明の平瓦細片１点が出土しており、中世にさかのぼる遺物は確認できなかった。

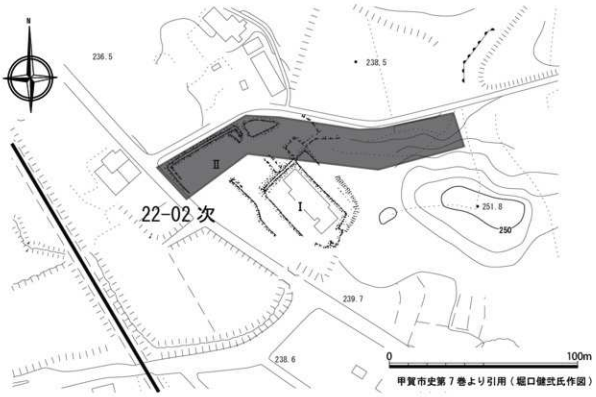


図６：22-02 次　試掘調査対象範囲位置図

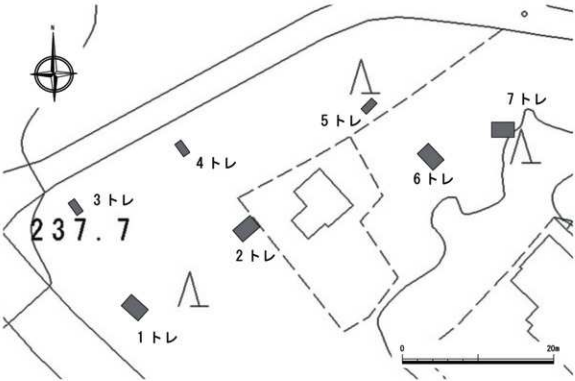


図 7：22-02 次　トレンチ位置図

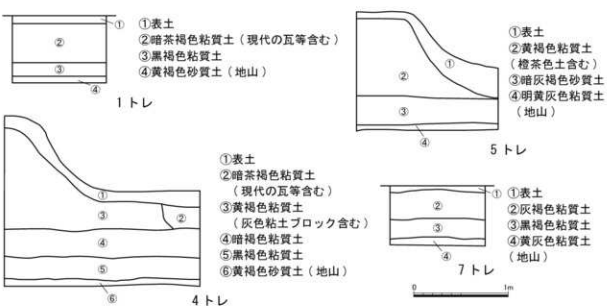


図 8：22-02 次　土層断面図

まとめ

今回の調査では、五反田口城遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。五反田口城跡の曲輪Ⅱでは、遺構や遺物は確認できなかった。また、曲輪西から南辺をめぐる土塁は、調査の結果、城に伴うものでは無く、後世の宅地化に伴う盛土と考えられる。

なお、曲輪の北西側にめぐる土塁の一部は、工事計画から除外され、現地保存されている。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第 7 巻 甲賀の城』

写真 7：22-02 次　1 トレ全景

写真 8：22-02 次　1 トレ土層

写真 9：22-02 次　4 トレ全景

写真 10：22-02 次　4 トレ土層（北壁）

写真 11：22-02 次　5 トレ全景

写真 12：22-02 次　5 トレ土層

22-05 次　植遺跡

調査位置と調査経緯

植遺跡は、水口平野の中央の水口町植に位置する集落遺跡である。遺跡は、野洲川によって形成された河岸段丘上に立地している。

遺跡では、平成 13 年から 14 年度に滋賀県教育委員会によって、ほ場整備に伴う発掘調査が実施されている。調査の結果、掘立柱建物 17 棟、竪穴建物 119 棟、甕棺墓 4 基などを確認している。その中でも、大型倉庫建物群や豪族居館と考えられるものや、鍛冶工房に関するものが確認されており、一般集落とは異なる遺跡であったとみられる。特に、古墳時代中期の大型倉庫建物群は、ヤマト政権に関連した首長層がその勢力を誇示するために築かれたものと考えられている。この大型倉庫建物群を確認した範囲は、地元の協力もあり現地保存され、平成 21 年に滋賀県の史跡に指定された。

今回報告する 22-05 次は、店舗建設に伴う試掘調査である。調査地は、史跡指定から西に約 300 m の地点であり、西に舌状に延びる低位段丘下に立地している。遺跡周辺は、ほ場整備によって地形が改変されているが、当調査地周辺に限っていえば、段丘の高低差が旧地形として残っている。

調査概要

トレンチは、2 × 3 m を 2 箇所、1 × 2 m のトレンチを 1 箇所設定し、調査面積は 14 ㎡となった。基本層序は、①表土、②造成土（現代の廃棄物等含む）、③黄褐色粘質土、④灰褐色砂質土で、現地表面から約 70cm 下で④層を確認した。なお、すべてのトレンチで、遺構や遺物は確認できなかった。

まとめ

今回の調査では、植遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。調査地は、県史跡に指定されている地点よりも一段低く、明瞭な遺構面は確認できなかった。植遺跡の中心は県史跡に指定されている範囲の周辺であり、段丘上に展開していたと考えられる。

《参考文献》

滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会 2005『植遺跡』

図 9：22-05 次　調査対象範囲位置図

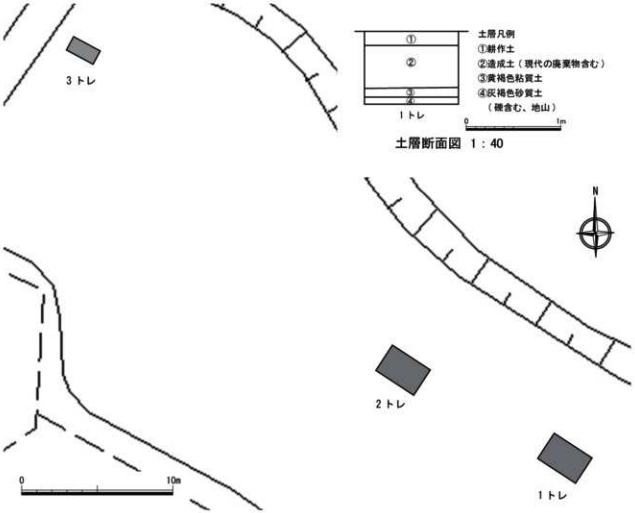


図 10：22-05 次　トレンチ位置図・土層断面図

写真 13：22-05 次　1 トレ全景

写真 14：22-05 次　1 トレ土層

22-06 次　坊谷遺跡

調査位置と調査経緯

坊谷遺跡は、甲南町池田に位置する寺院跡と推定されている遺跡である。調査地のある甲南町池田には檜尾神社があり、古くは神仏習合の形態をとった寺社である。別当寺文殊院をはじめ、近辺には 28 院 6 坊の伽藍があったと伝わる。調査地周辺は、小字で坊谷、三界、大日など仏教関係の地名がみられることや、地元の伝承で戦国期に織田信長の戦火を避け、この地に僧侶が逃れてきたと伝わっていることから、寺院があったと考えられている。

平成 6 年度に甲南町教育委員会が試掘調査を実施している。この調査では人工的な平地が確認できる箇所にトレンチを設定し、表土直下で褐色土の遺構面を確認した。

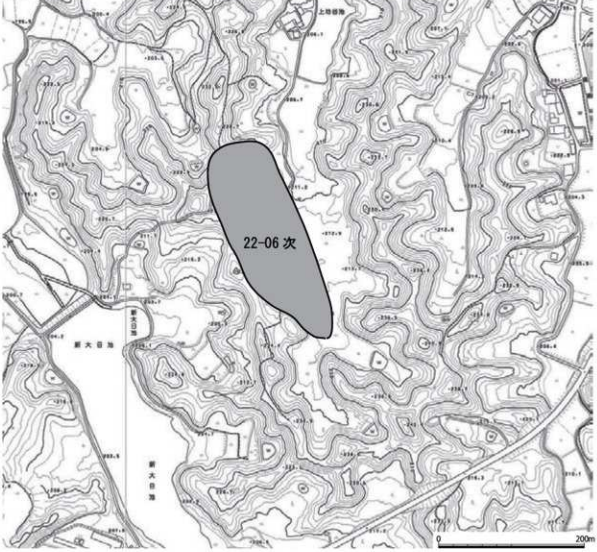


図 11：22-06 次　調査対象範囲位置図

この調査では、一辺約 30 cmの方形の柱穴を検出し、近世の施釉陶器が出土したことから、近世の建造物があったと結論づけている。しかし、柱穴とみられる遺構は、平面検出に留まり、断ち割りを行っていないことから深さは不明である。また、遺物は柱穴に伴うものではなく、出土層位は不明である。

今回報告する 22-06 次は開発事業立案前の試掘調査である。調査地は、平成 6 年度の調査結果を踏まえ、人工的な平地が確認できる範囲にトレンチを設定した。

調査概要

トレンチは 1 × 2 mを 1 箇所、1 × 3 mを 4 箇所、2 × 3 mを 3 箇所、3 × 4 mを 1 箇所、2 × 10 mを 5 箇所、2 × 5 mを 1 箇所設定し、面積は 154 ㎡となった。

基本層序は、4 トレ～ 9 トレ、13 ～ 15 トレで①表土、②灰色粘質土（地山）であり、表土直下で②層を確認した。1 トレ～ 3 トレ、10 トレ～ 12 トレで①表土、②明褐色粘質土、③灰褐色粘質土である。

調査の結果、トレンチを設定した範囲で人為的な平坦面を確認したが、柱穴などの遺構は確認できず、遺物は近代以降のものがわずかに出土した。また、平成 6 年度の調査で確認した柱穴は、

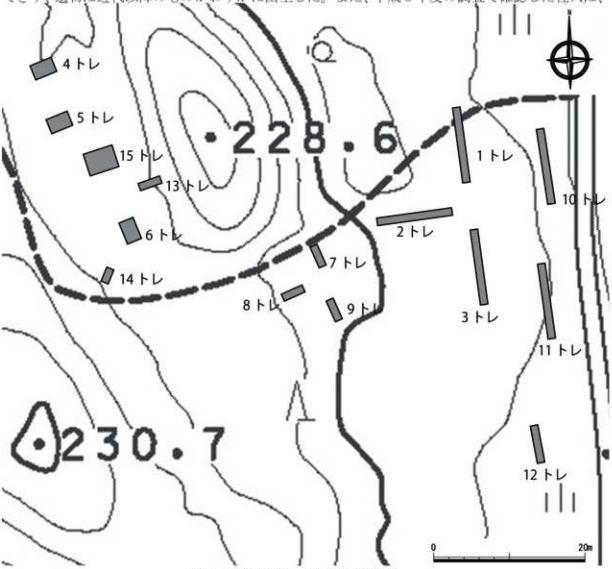
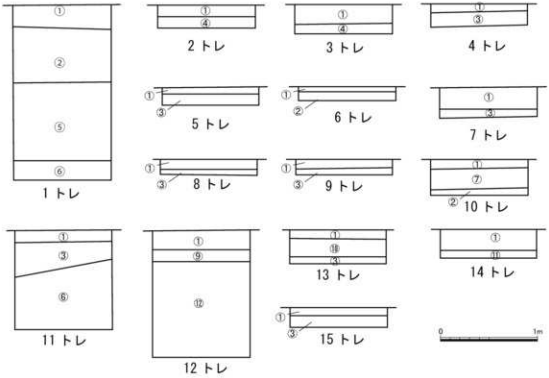


図 12：22-06 次　トレンチ位置図



土葬凡例

①表土
②明褐色粘質土（灰色粘土ブロック含む）
③明褐色粘質土
④灰色粘質土（粘土ブロック含む）
⑤灰色粘質土
⑥暗茶色砂質土
⑦茶色粘質土
⑧明茶色砂質土
⑨明灰褐色粘質土
⑩暗茶色粘質土
⑪明灰色粘質土
⑫灰褐色粘質土

図 13：22-06 次　土層断面図

今回の調査で確認できなかった。

調査地内では、現代に造られたコンクリート製の枠を持つ井戸が確認でき、この井戸は農業用と考えられる。

まとめ

今回の調査では、坊谷遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。平成 6 年度の調査では寺院跡と推定されていたが、今回の調査ではそれを裏付ける資料を得られず、坊谷遺跡が寺院跡であった可能性は低いと言わざるをえない。

《参考文献》

甲南町教育委員会 1996『平成 5・6・7 年度甲南町内遺跡発掘調査報告書』

甲賀市史編纂委員会 2013『甲賀市史 第 5 巻 信楽焼・考古・美術工芸』

写真 15：22-06 次　2 トレ全景

写真 16：22-06 次　2 トレ土層

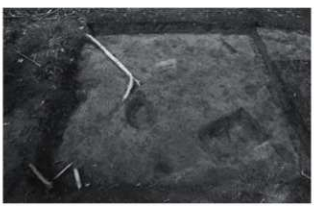


写真 17：22-06 次　4 トレ全景

写真 18：22-06 次　4 トレ土層（北壁）

写真 19：22-06 次　7 トレ全景

写真 20：22-06 次　7 トレ土層

22-07 次　甲南町野尻地先

調査位置と調査経緯

調査地は甲南町野尻地先に位置する。付近には北東約 200 mに中世の平地城館である野尻支城遺跡が、南東約 200 mに古代から中世の遺跡である前ノ山遺跡が所在する。調査地周辺では、北西に約 100 mの地点で、平成 21 年度に宅地造成に伴う試掘調査（09-15 次）を実施した。しかし、遺構遺物ともに確認できていない。

今回報告する 22-07 次は、認定子ども園建設に伴う試掘調査である。

調査概要

トレンチは、2 × 5 mを 6 か所設定し、調査面積は 60 ㎡となった。基本層序は、①耕作土、②暗灰褐色粘質土、③明灰色粘質土で、現地表面から約 40cm 下で③層を確認した。

すべての調査区で遺構は確認できなかったが、4 トレで湿地性の堆積を確認し、13 世紀から 16 世紀の遺物が少量出土した。これらは、表面が摩耗しており、遺構に伴うものではないため、流れ込みであると判断できる。

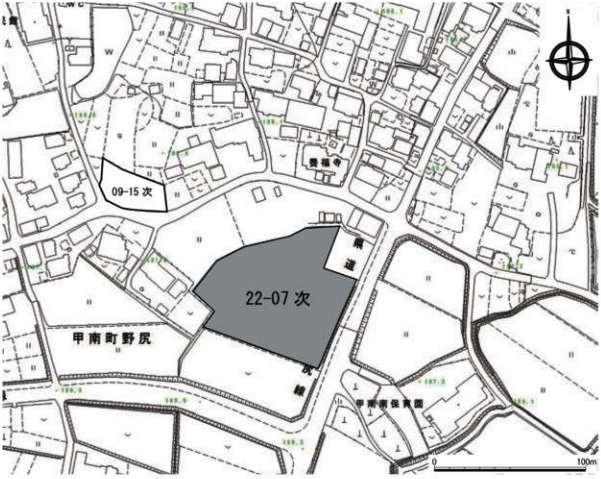


図 14：22-07 次　調査対象範囲位置図

図 15：22-07 次　トレンチ位置図

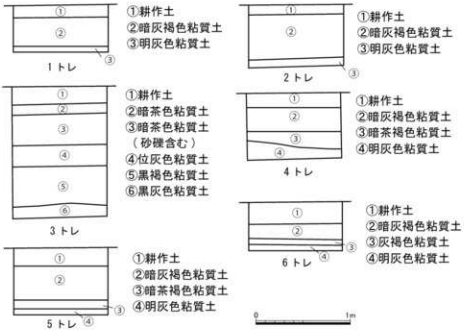


図 16：22-07 次　土層断面図

まとめ

今回の調査では、遺構が確認できず、流れ込みとみられる遺物がわずかに出土した程度で、保護対象となる埋蔵文化財は確認できなかった。ただし、周辺で当該時代の遺構が確認される可能性は考えられるため、今後の調査の進展に期待したい。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第7巻 甲賀の城』

写真21：22-07次　1トレ全景

写真22：22-07次　1トレ土層

写真23：22-07次　3トレ全景

写真24：22-07次　3トレ土層

写真25：22-07次　6トレ全景

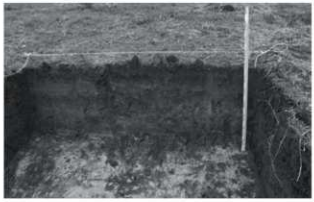


写真26：22-07次　6トレ土層

22-08 次　前野遺跡

調査位置と調査経緯

前野遺跡は、甲南町杉谷に位置し、柚川左岸の河岸段丘上に立地している。これまで試掘調査は３件実施しており、中世の集落遺跡と推測されている。08-04・18 次ではピットなどを検出し、15-26 次では時期不明の柵列を２条検出している。

このように前野遺跡では、小規模ながら試掘調査を実施しているが、いずれも遺構を確認しているのは、遺跡の東側を走る甲南阿山伊賀線沿いであり、地形が一段上がっている地点である。

今回報告する 22-08 次は資材置き場造成に伴う試掘調査である。

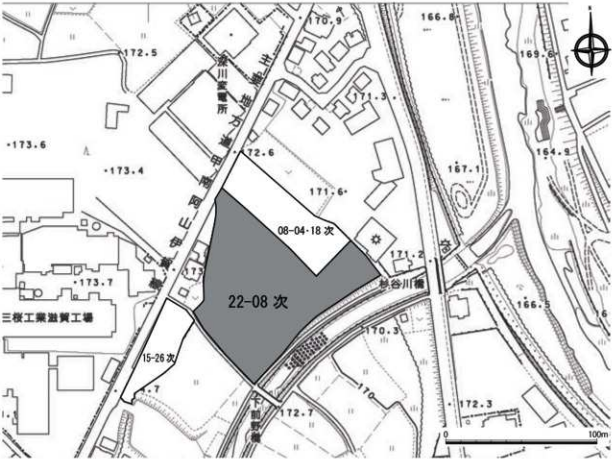


図 17：22-08 次　調査対象範囲位置図

調査概要

トレンチは２×５ｍを５箇所設定し、調査面積は 50 ㎡となった。基本層序は、①耕作土、②暗灰色粘質土（床土）、③黄灰色粘質土で、現地表面から約 40㎝ 下で③層を確認した。なお、4 トレ、5 トレでは③層は確認できなかった。

すべてのトレンチで、遺構は確認できなかった。なお、5 トレの②層で信楽焼すり鉢、土師器、磁器が出土した。

まとめ

今回の調査では、前野遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。前野遺跡は中世の

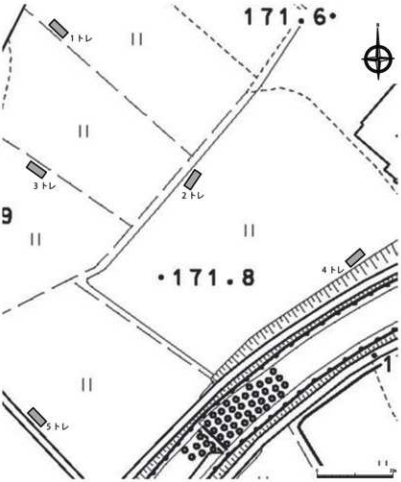


図 18：22-08 次　トレンチ位置図

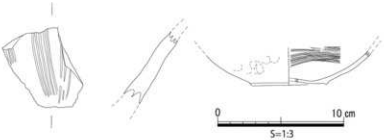


図 19：22-08 次　出土遺物

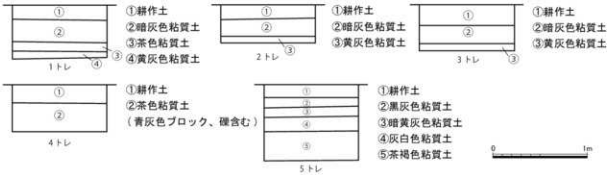


図 20：22-08 次　土層断面図

集落遺跡であると考えられているが、今回の調査では当該時期の遺物は出土しなかった。

市内の主な中世の集落遺跡としては貴生川遺跡が挙げられるが、それ以外では遺物が少量出土するだけである。これは大規模な発掘調査が行われていないことがひとつの要因でもあるが、今後の調査の進展によって、前野遺跡をはじめとする中世の集落が明らかになっていくことを期待する。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2013『甲賀市史 第5巻 信楽焼・考古・美術工芸』

甲賀市教育委員会 2017『平成28年度　市内遺跡発掘調査報告書』

写真27：22-08次1トレ全景

写真28：22-08次1トレ土層

写真29：22-08次5トレ全景

写真30：22-08次5トレ土層

22-09 次　東山遺跡

調査位置と調査経緯

東山遺跡は、信楽町黄瀬に位置する官衙遺跡である。遺跡は、史跡紫香楽宮跡（内裏野地区）が立地する標高 280 ～ 290 mの内裏野丘陵上に所在する。

東山遺跡では平成 17 年度の第 1 次調査、平成 29 年度の試掘調査 17-05 次、第 2 次調査、平成 30 年度の第 3 次調査を実施した。調査の結果、第 1 次調査では側溝を伴う道路を確認し、平成 29 年度からの調査では、大型の掘立柱建物を確認した。この調査成果は、令和 3 年に刊行した『東山遺跡発掘調査報告書』で報告しているので、そちらを参照されたい。この調査によって遺構が確認された範囲は、令和 4 年 3 月 15 日に国史跡紫香楽宮跡に追加指定された。

今回報告する 22-09 次は農業倉庫建築に伴う試掘調査である。調査地は遺跡の南西部に位置しており、元々は工場が立地していたが、現在はグランドゴルフ場となっている。

調査概要

トレンチは 2 × 5 mを 4 か所設定し、調査面積は 40 ㎡となった。基本層序は①表土、②造成土（現代の廃棄物等含む）で、すべてのトレンチで 2 m以上掘削したが、地山は検出できず、遺構や遺物は確認できなかった。

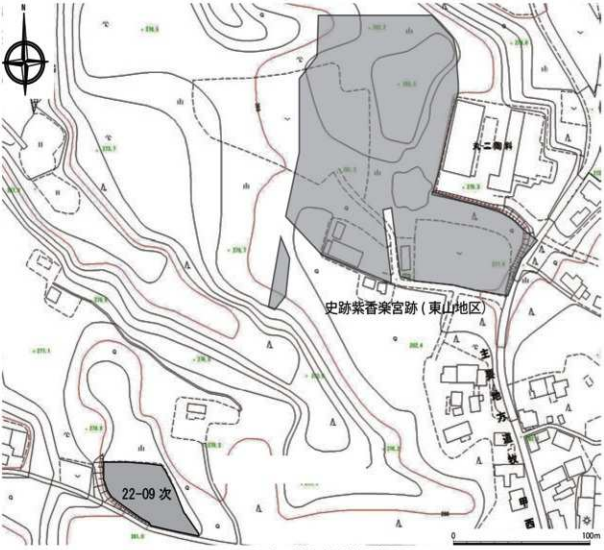


図 21：22-09 次　調査対象範囲位置図

まとめ

今回の調査では、東山遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。当該地は、工場が立地していたため、その際に造成工事によって地形が改変されていると考えられる。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2013『甲賀市史 第5巻 信楽焼・考古・美術工芸』

甲賀市教育委員会 2020『紫香楽宮跡関連遺跡　東山遺跡発掘調査報告書』

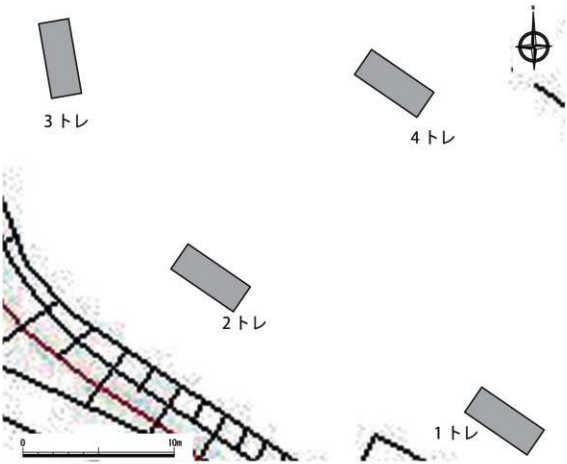


図22：22-09次　トレンチ位置図

写真31：22-09次　1トレ全景

写真32：22-09次　1トレ土層

22-10 次　丸由窯跡

調査位置と調査経緯

丸由窯跡は、信楽町長野に位置する明治から昭和にかけて操業した信楽焼の連房式登窯跡である。丸由窯は、明治時代初期（1870 年代頃）に初代神崎半右エ門によって開窯した。そして、同末期（1910 年前後）に、この場所に登窯を築き、修築を繰り返しながら昭和 42 年（1967 年）頃までの約 60 年間にわたって操業していた。丸由窯では、火鉢や植木鉢、花瓶等を生産していた。

丸由窯跡は、当初 11 室の焼成室を持つ登窯であったが、昭和 40 年代に後部４室が取り壊され、令和４年６月下旬頃の大雨によって燃焼室（火袋）と前部３室が崩壊し、現在は４室が残る。今回報告する 22-10 次は自然崩落に伴う確認調査であり、崩落箇所の発掘調査と窯跡全体の測量を実施した。

調査概要

窯は斜面に築かれた連房式登窯である。天井部は横室形で、狭間は有段横狭間構造である。各室には東側に開口部を設ける。覆屋は現存しないが、覆屋の支柱が５室目と６室目の間に残る。燃焼室と焼成室１～２室目は天井部が崩壊し、３室目は奥壁側の一部が残存、４～７室目は全て残存する。

窯の残存長は、燃焼室から７室目で 14.6 m、幅 5.4 ～ 8.2 mである。焼成室は平面形態が半円形を呈しており、幅は 4.5 m、奥行は 0.9 mを測る。焚口は上下に２箇所あったが、上部は崩落によって失われた。下部は残存しており、縦 0.15 m、横 0.2 mを測る。なお焚口は、レンガを組み上げて造られている。

窯全体はレンガを組み上げ、天井部は窯壁片を含んだ粘土でアーチ状に構築する。焼成室内部

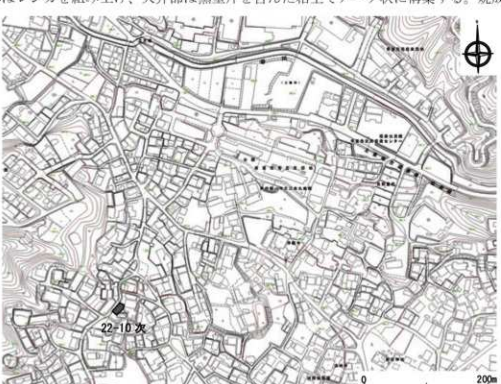


図 23：22-10 次　調査対象範囲位置図

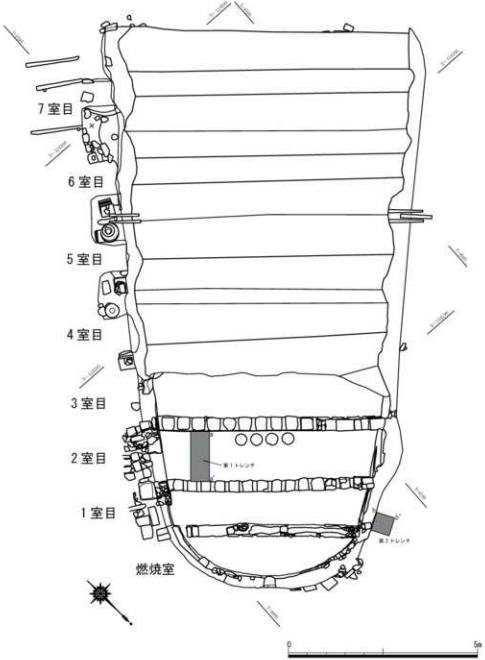


図 24：22-10 次　平面図

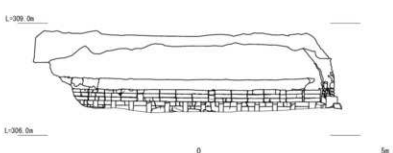


図 25：22-10 次　立面図（背面）

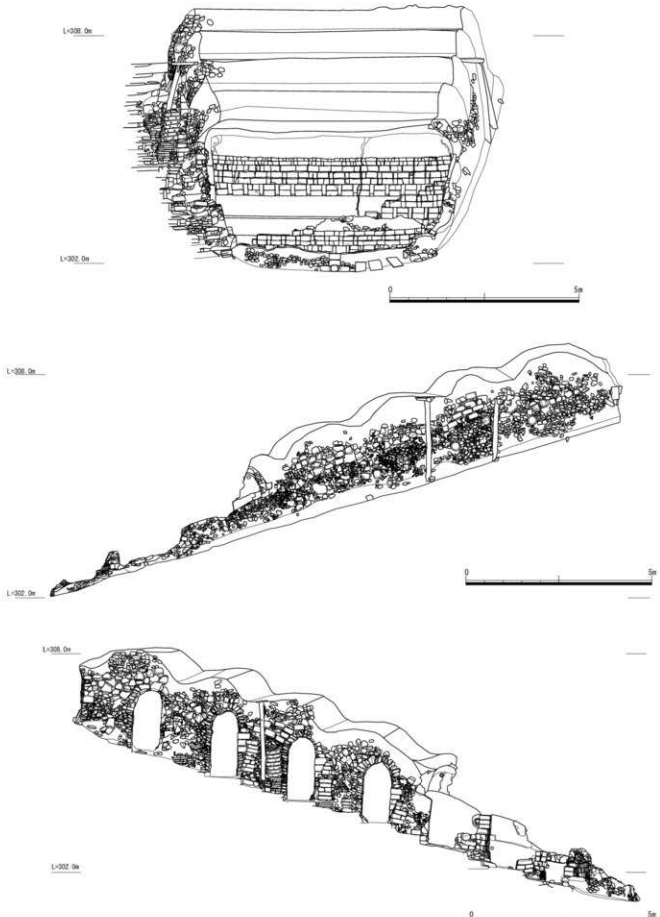
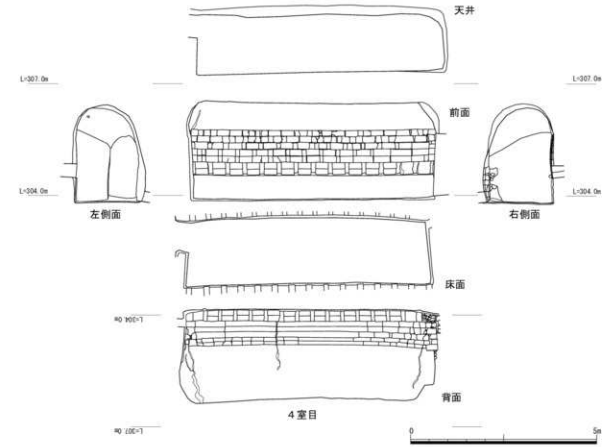


図26:22-10次　立面図（上段:前面，中段:右側面，下段:左側面）



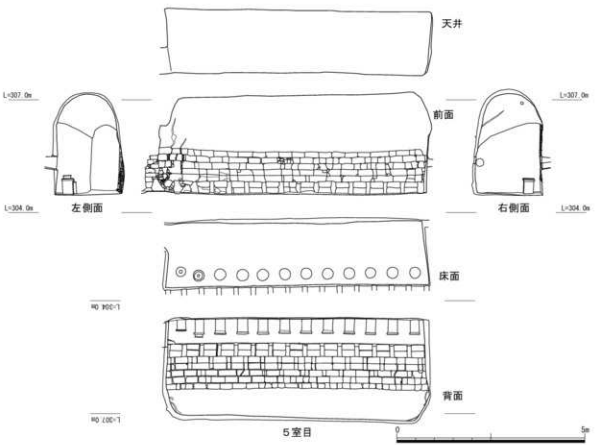


図27：22-10次　窯内部図面（上段：4室目，下段：5室目）

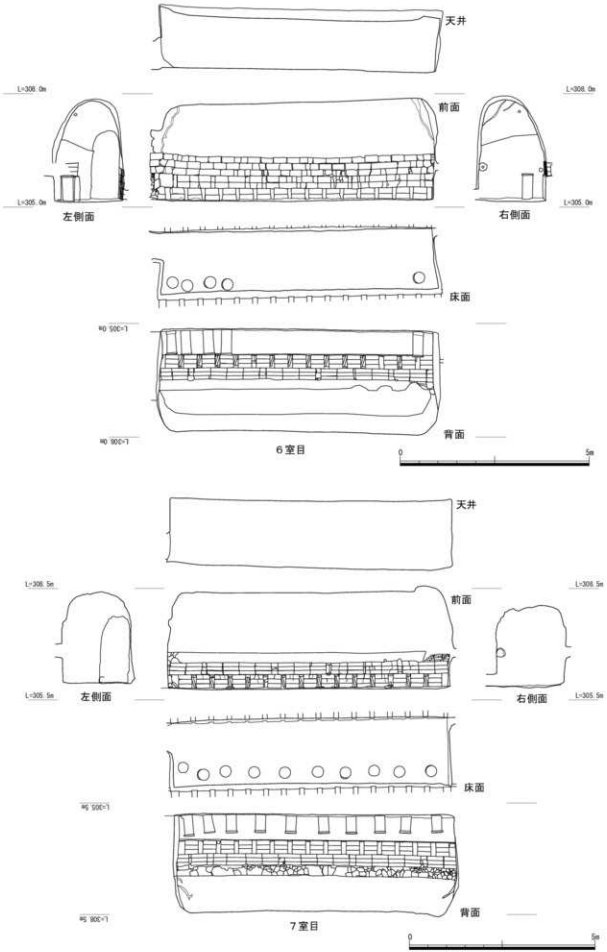


図28：22-10次　窯内部図面（上段：6室目，下段：7室目）

は熱によりガラス化している（写真57）。焼成室には左側面に幅0.7～0.8ｍ、高さ1.6～1.8ｍの出入口がつく。現状では入口横に窯焚き時に入口を塞ぐレンガ等が積み上げられている。色見穴と煙出し穴が右側面につくが、５室目と６室目以外は塞がれている。各室には狭間が設けられており、レンガをずらして組むことで狭間を設けている。狭間の数は、１室目が13箇所、２室目が15箇所、３室目が15箇所、４室目が16箇所、５室目が15箇所、６室目が16箇所、７室目が16箇所ある。室内部にはサヤや火鉢などが置かれていたが、これは窯の廃業後に見学者に向けての展示品として置かれたものであり、操業時の位置を保っているわけではない。床面には床砂が敷かれている。

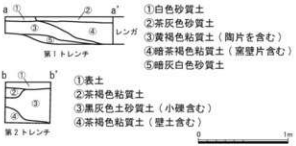


図29：22-10次　トレンチ断面図

床下の構造確認のために、２室目に0.5ｍ×1.2ｍの第１トレンチを、また、１室目の右壁外に0.5ｍ×0.5ｍの第２トレンチを設定し、断面調査を行った。

第１トレンチでは、傾斜ができるように地山を削り、レンガを前面に設置し、内部には粘土や砂等を入れて２室目の床を構築していることがわかった。なお､出土した陶片はサヤ鉢であるが、年代は近代から現代のものとみられる。

第２トレンチでは、現地表面から約40㎝下で、砂利や粘土によって人為敵に埋没された色見穴を確認した。埋没した色見穴は２室目、３室目の内部でも、現存する色見穴の下で確認できる。下部の色見穴は完全に埋没しており、色見穴として機能していたのは上部だけである。ある時期に焼成室の天井を高くするために窯が大型し、その際に上部に新たな色見穴が設けられ、下部の色見穴は機能を失い、人為的に埋められたと考えられる。

まとめ

丸由窯跡は、明治から昭和にかけて操業した登窯であり、一部が失われているが、近現代の信楽焼の生産を知る上で重要な遺跡である。また、信楽町長野では最盛期には80基以上の窯が操業しており、丸由窯も信楽焼の最盛期を支えた窯のひとつである。丸由窯では、これまで発掘調査や測量調査は実施しておらず、今回の調査によって、初めて窯跡の三次元計測をすることができた。

信楽では昭和40年代からトンネル窯の導入や公害問題などにより、登り窯から重油、灯油、電気、ガスを燃料とする窯に移り変わっていった。丸由窯もその流れにより、重油を保管するスペースを設けるために、窯の後方が取り壊されている。信楽焼の最盛期を支えた登窯の一部は、観光資源として活用されているが、多くは取り壊されており、今後丸由窯跡をはじめとした登窯の保存と活用に取り組んでいく必要がある。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2013『甲賀市史 第５巻 信楽焼・考古・美術工芸』

甲賀市教育委員会 2020『信楽焼の製造技術 民俗文化財調査報告書』

写真 33：22-10 次　平面オルソ

写真 34：22-10 次　背面オルソ

写真 35：22-10 次　前面オルソ

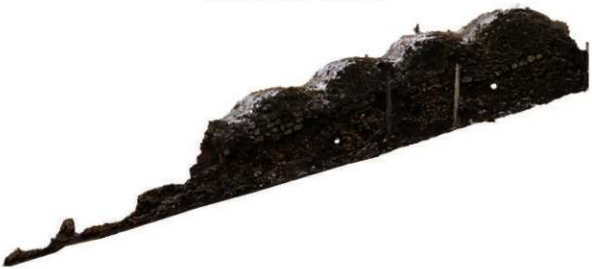


写真 36：22-10 次　右側面オルソ

写真 37：22-10 次　左側面オルソ

写真 38：22-10 次　調査地遠景（北から）

写真 39：22-10 次　丸由窯跡全景（北から）

写真 40：22-10 次　崩落状況（西から）

写真 41：22-10 次　崩落状況（東から）

写真 42：22-10 次　窯跡前面

写真 43：22-10 次　崩落壁除去後（北西から）

写真 44：22-10 次　崩落壁除去後（西から）

写真 45：22-10 次　残存する焼成室入口

写真 46：22-10 次　残存する覆屋の支柱

写真 47：22-10 次　焼成室 4 室目入口

写真 48：22-10 次　焚き口

写真 49：22-10 次　背面残存状況

写真 50：22-10 次
燃焼室

写真 51：22-10 次
1 室目狭間

写真 52：22-10 次
1 室目

写真 53：22-10 次
2 室目

写真 54：22-10 次
3 室目

写真 55：22-10 次
4 室目内部

写真 56：22-10 次
7 室目内部

写真 57：22-10 次
焼成室内部壁面

写真 58：22-10 次
第 1 トレンチ

写真 59：22-10 次
レンガ設置状況

写真 60：22-10 次
第 2 トレンチ
（色見穴埋没状況）

写真 61：22-10 次
第 2 トレンチ
堆積状況

22-11 次　市原城遺跡

調査位置と調査経緯

市原城遺跡は、甲南町市原に位置する城館遺跡である。柚川左岸の段丘の先端に立地する。遺跡の大部分に工場が立地しており、地形が改変されているため、現況では明確な遺構は確認できない。なお、明治 6 年（1873 年）の「近江国甲賀郡市原村地引全図」によれば、約 50 m四方の山林の西側に、幅約 3 ～ 7 mの帯状の田地が描かれており、堀跡とみられる。

また、遺跡の西側には樋詰遺跡があり、試掘調査によって緑釉陶器や黒色土器が出土している。このことから、城の西側では平安～鎌倉時代の集落遺跡の存在が考えられる。

今回報告する 22-11 次は農業倉庫建築に伴う試掘調査である。調査地は柚川の段丘崖の下であり、遺跡の南東端に位置する。

調査概要

トレンチは 2 × 7 m と 2 × 6 m の 2 箇所設定し、調査面積は 26 ㎡となった。基本層序は①耕作土、②灰褐色砂質土（造成土）、③黄色砂質土（河岸段丘の堆積土）で、地表から約 50 ㎝下で③層を確認した。

トレンチ東端で深さ 30㎝ 程度の暗灰色砂礫の落ち込みを検出したが、現況地形の段と方向が同じであり東に向けて下がっていくことから、河岸段丘の段差と考えられ、城跡に関連するものとは判断できない。なお、2 トレは耕作土の直下で③層を確認した。すべてのトレンチで遺構や遺物は確認できなかった。

図 30：22-11 次　調査対象範囲位置図

図 31：22-11 次　トレンチ位置図・土層断面図

まとめ

今回の調査では、市原城遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。市原城跡は古い地積図や航空写真を基に半町四方の平地城館と推定されているが、遺構の大部分は工場により削平されていると考えられる。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第 7 巻 甲賀の城』

写真 62：22-11 次　1 トレ全景

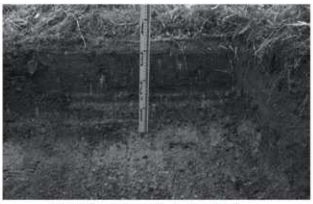


写真 63：22-11 次　1 トレ土層

22-12 次　水口岡山城遺跡

調査位置と調査経緯

水口岡山城遺跡は、水口町水口に位置する安土桃山時代の城館遺跡である。城は、天正 13 年(1585 年)、甲賀郡最大の独立丘陵である古城山に、羽柴秀吉の家臣である中村一氏によって築かれた。

平成 22 年度から平成 27 年度に地形測量調査や 4 次にわたる発掘調査によって、山中に残る曲輪の配置や石垣の崩された様子や伝本丸跡の両端に築かれた櫓台の構造等が明らかとなっている。そして、平成 29 年 2 月 9 日に、城郭遺構が良好に残る古城山一帯が「史跡水口岡山城跡」として国の史跡に指定された。

今回報告する 22-12 次は児童クラブ建築に伴う試掘調査である。調査地は史跡指定範囲外の山麓部分で、推定大手の西側約 100 m の地点に位置する。

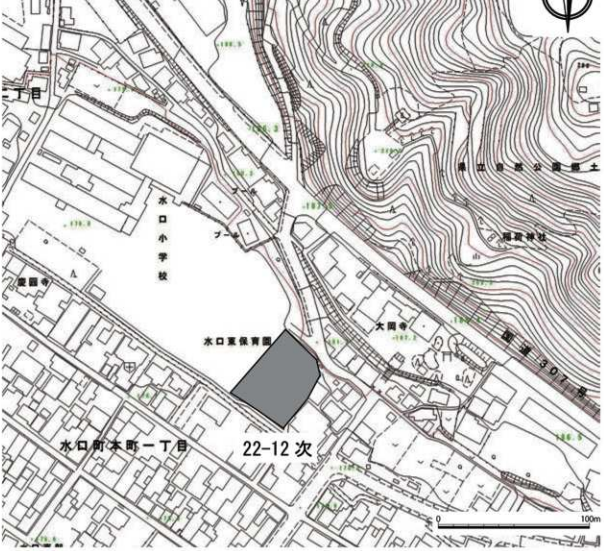


図 32：22-12 次　調査対象範囲位置図

調査概要

トレンチは２×５ｍを１箇所、２×３ｍを２箇所設定し、調査面積は22㎡となった。基本層序は①暗灰色粘質土、②暗茶色粘質土（礫含む）、③暗黄褐色粘質土（灰色粘土ブロック含む）で、地表から約80cm下で③層を確認した。

調査の結果、すべてのトレンチで遺構と遺物は確認できなかった。２・３トレンチでは、盛土層を確認しており、グラウンド造成時に大きく改変を受けているとみられる。

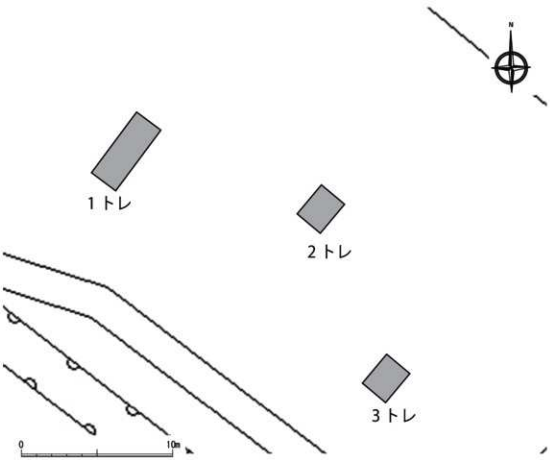


図33：22-12次　トレンチ位置図

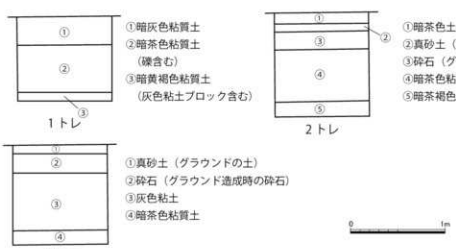


図34：22-12次　土層断面図

まとめ

今回の調査では、水口岡山城遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。当該地は造成される際に改変を受けており、地形も大きく変わっている可能性がある。

隣接する水口小学校のグラウンドを含め、一帯は水口岡山城の家臣団屋敷推定地であるが、調査事例がないため、詳細は不明である。

《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第7巻 甲賀の城』

甲賀市教育委員会 2016『水口岡山城跡総合調査報告書』

写真 64：22-12 次　1 トレ全景

写真 65：22-12 次　1 トレ土層

写真 66：22-12 次　2 トレ全景

写真 67：22-12 次　2 トレ土層

22-13 次　甲南町野田地先（下浦遺跡近接地）

調査位置と調査経緯

調査地は、甲南町野田字下浦に位置し、西側には下浦遺跡が隣接する。下浦遺跡は古代から中世にかけての遺物が散布し、これまで本発掘調査および試掘調査を実施している。遺跡の西端で実施した本発掘調査では、溝や噴砂痕跡の遺構を確認し、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、信楽焼擂鉢等の遺物が出土した。また、本発掘調査以外に７件の試掘調査を実施しているが、下浦遺跡の様相を示す遺構や遺物は確認できていない。

今回報告する 22-13 次は、宅地造成に伴う試掘調査である。

調査概要

トレンチは２×３ｍを４箇所設定し、調査面積は 24 ㎡となった。基本層序は①耕作土、②暗灰色粘質土、③黄灰色粘質土、④黄褐色砂質土で、地表から約 70㎝ 下で④層を確認した。

すべてのトレンチで遺構と遺物は確認できなかった。

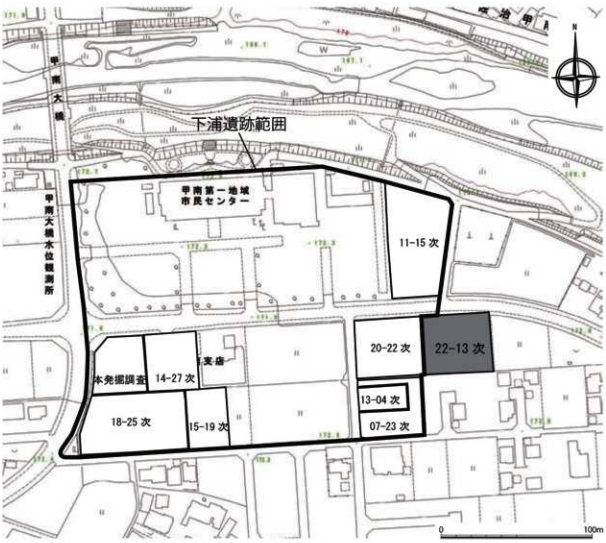


図 35：22-13 次　調査対象範囲位置図

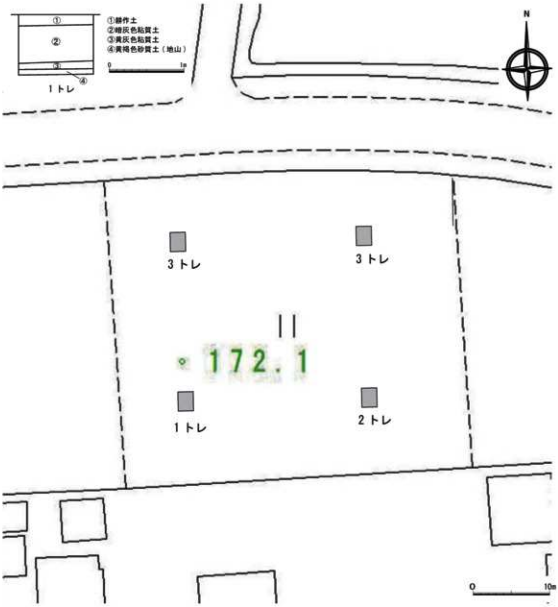


図 36：22-13 次　トレンチ位置図・土層断面図

まとめ

今回の調査では、下浦遺跡と隣接した箇所であったが、新たな埋蔵文化財は確認できなかった。近年、下浦遺跡周辺では宅地化が進んでおり、それに伴い試掘調査の件数も増加しているが、埋蔵文化財を確認した調査は少ない。遺跡内では未調査の箇所もあることから、今後の調査の進展に期待したい。

《参考文献》

甲賀市教育委員会 2006『下浦遺跡発掘調査報告書』
甲賀市教育委員会 2020『令和元年度　市内遺跡発掘調査報告書』

写真 68：22-13 次
1 トレ全景

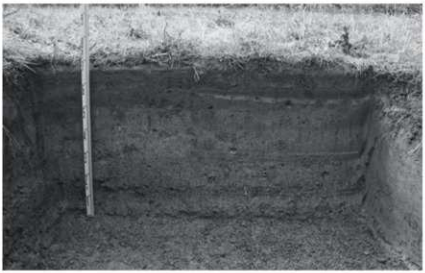


写真 69：22-13 次
1 トレ土層

写真 70：22-13 次
2 トレ全景

報告書抄録

ふりがな	れいわごねんど しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	令和5年度 市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	甲賀市文化財報告書
シリーズ番号	第42集
編著者名	伊藤 航貴
編集機関	甲賀市教育委員会
所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6053番地
発行年月日	令和6年(2024年)3月29日

所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちちょうなかやしき 水口町中邸	25209	363-113	34°58′19.1″	136°09′45.9″	12 6	2022/7/6 2022/8/18	介護福祉施設
ごたんだぐちじょういせき 五反田口城遺跡	こうかちょうあぶらひ 甲賀町油日	25209	365-055	34°52′10.6″	136°14′39″	54	2022/7/21～ 22	駐車場 資材置き場
うえいせき 植遺跡	みなくちちょううえ 水口町植	25209	363-090	34°58′32.1″	136°08′25.7″	14	2022/12/26	店舗
ぼうたにいせき 坊谷遺跡	こうなんちょういけだ 甲南町池田	25209	366-079	34°53′45.5″	136°11′55.3″	154	2022/10/18～ 28	太陽光発電
こうなんちょうのじりうさき 甲南町野尻地先	こうなんちょうのじり 甲南町野尻	25209	—	34°54′46.5″	136°10′47.8″	60	2022/11/22	認定こども園
まえのいせき 前野遺跡	こうなんちょうすぎだに 甲南町杉谷	25209	363-093	34°55′49.9″	136°09′34.5″	50	2022/11/30	資材置き場
ひがしやまいせき 東山遺跡	しがらきちょうきのせ 信楽町黄瀬	25209	367-151	34°55′12.8″	136°04′48.5″	40	2022/12/5	農業倉庫
まるよしかまあと 丸由窯跡	しがらきちょうながの 信楽町長野	25209	—	34°52′46.5″	136°03′01″	287	2023/1/10～ 3/31	自然崩落に伴う 現況確認
いちはらじょういせき 市原城遺跡	こうなんちょういちはら 甲南町市原	25209	366-051	34°56′00″	136°09′25.9″	26	2023/2/8	太陽光発電
みなくちおかやまじょういせき 水口岡山城遺跡	みなくちちょうほんまち 水口町本町	25209	363-087	34°58′07.6″	136°10′40.2″	22	2023/2/20	児童クラブ
しもうないせききんせつち 下浦遺跡近接地	こうなんちょうのだ 甲南町野田	25209	—	34°55′37.6″	136°10′11.5″	24	2023/3/10	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水口城遺跡	城館跡	近世		瓦器	
五反田口城遺跡	城館跡	中世		平瓦	
植遺跡	集落跡	古墳～中世			
坊谷遺跡	集落跡 社寺跡	平安～近世		磁器	
甲南町野尻地先				瓦器・信楽焼	
前野遺跡	集落跡	古代		信楽焼	
東山遺跡	散布地	古代			
丸由窯跡	生産遺跡	近代	登窯	信楽焼、窯道具	昭和30年代まで操業
市原城遺跡	城館跡	中世			
水口岡山城遺跡	城館跡	室町			
下浦遺跡近接地					

甲賀市文化財報告書第42集
令和５年度　市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行　令和６年３月２９日
編集・発行　甲賀市教育委員会
滋賀県甲賀市水口町水口６０５３番地
TEL　０７４８－６９－２２５０
FAX　０７４８－６９－２２９３
印　　刷　株式会社トップ